

# 第42期 中間報告書

平成22年4月1日～平成22年9月30日

 **三協フロンティア株式会社**

**JASDAQ**  
証券コード 19639



Mobile Space Frontier®

## 基本理念

### 目的（存在理由）

#### 社会への貢献

わたしたちは  
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、  
よって社会に貢献することを目的とします。

### 基本的価値観（不変の主義）

#### 1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、  
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

#### 2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、  
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

#### 3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々\*に対し、  
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

\*「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー  
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに第42期（平成22年4月1日～平成22年9月30日）  
中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当第2四半期累計期間における日本経済は、新興国の経済成長に伴い輸出や生産が増加するなど景気悪化に底打ちの兆しが見られるものの、雇用・所得情勢は依然として厳しい状況が続いており、本格的な国内需要の回復には至っていません。また、急激な円高の進行や海外経済の減速懸念など先行き不透明な状況が続いております。

そのような中、建設市場は、先行指標である設備投資は回復傾向が見られますが、公共投資は大幅に減少したため、建設投資全体としては依然として低水準で推移する厳しい状況となっております。

必要な時に必要なスペースを必要な設備とともに提供する ― 当社のユニットハウスは、建設現場向けのレンタルを中心とした仮設建築市場だけではなく、ここ数年來、開拓を続けてきた本建築市場、不動産市場においてもその優位性を十分に発揮できると確信しております。“建築の工業化”という当社のコア技術をさらに高めていくことにより、新たな市場の開拓を図っていく所存です。

今後も創業当時から受け継がれてきたフロンテアスピリッツ（開拓の精神）を原点に、失敗を恐れず情熱をもって新しい分野に挑戦してまいります。

### 当事業年度（平成22年4月1日～平成22年9月30日）の業績について

ユニットハウスのレンタルについては、依然として建設投資は回復せず、厳しい状況ですが、シェア拡大を目指し、積極的に受注活動を進めてまいりました。建設現場向け仮設レンタルは、出荷棟数は増加したものの、競争激化により受注単価は下落しました。一方で、イベント業や不動産業など期間限定で空間を必要とする顧客へのレンタル受注活動も積極的に推進してきました。また、トランクルームを7店舗出店し売上拡充に努めました。

ユニットハウスの販売においては、展示販売場でのキャンペーンを積極的に推進し、既存店舗の売上拡大を図りました。また、当社展示販売場を7店舗出店するとともに、建機リース会社などの代理店やホームセンター等と提携し、新たに50ヶ所以上の展示場に当社ハ

ウスを展示し、販売チャネルの拡充に努めました。

その結果、ユニットハウスの当第2四半期累計期間売上高は7,400百万円（前年同期比5.5%増）となりました。

立体駐車装置におきましては、当第2四半期累計期間売上高は177百万円（前年同期比25.7%減）となりました。

上記の結果、当第2四半期累計期間売上高は7,578百万円（前年同期比4.4%増）となりました。利益面においては、全社的に諸経費の削減と効率化に取り組みましたが、営業利益211百万円（前年同期比8.5%減）、経常利益174百万円（前年同期比13.3%減）、四半期純利益35百万円（前年同期比59.8%減）となりました。

今後ともリユース可能なユニットハウスの特長を活かして、期間限定で空間を必要とするニーズを開拓していくことと、さらなる販売チャネルの拡充に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

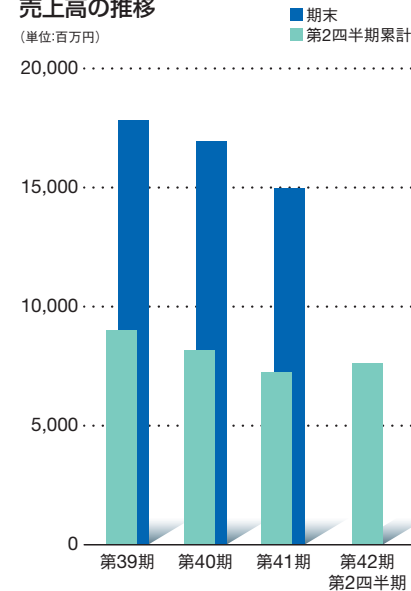
平成22年12月

代表取締役社長 長妻貴嗣

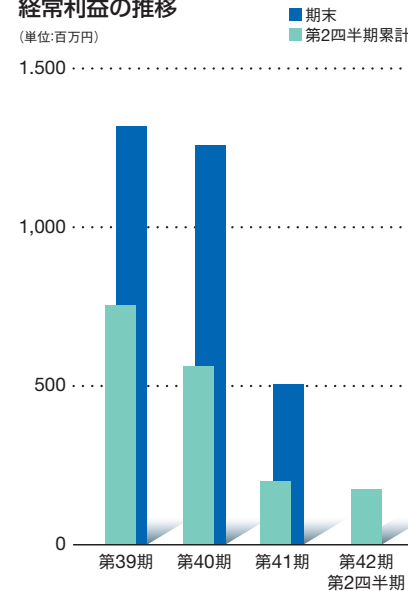
## 業績ハイライト

区分 \ 期別	第39期 (平成20年3月期)	第40期 (平成21年3月期)	第41期第2四半期 (平成22年3月期)	第41期 (平成22年3月期)	第42期第2四半期 (平成23年3月期)
売上高(百万円)	17,840	16,926	7,255	14,916	7,578
経常利益(百万円)	1,317	1,259	200	506	174
当期純利益(百万円)	547	674	87	209	35
1株当たり当期純利益(円)	24.52	30.27	3.95	9.49	1.59
総資産(百万円)	28,260	26,795	25,920	25,801	25,602
純資産(百万円)	16,266	16,611	16,572	16,555	16,504
1株当たり純資産(円)	727.61	751.55	749.57	748.87	746.61

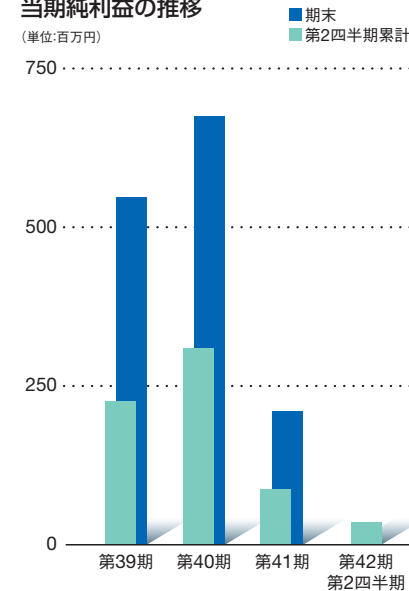
売上高の推移  
(単位:百万円)



経常利益の推移  
(単位:百万円)



当期純利益の推移  
(単位:百万円)



免責条項  
本報告書で記述されている通期の業績見通しなど将来についての事項は、予期しない経済状況の変化など様々な要因の影響を受けるため、その結果については当社が保証するものではありません。

## 各事業の概況

### ユニットハウスのレンタル

1日からでもレンタル可能。  
建設現場からイベント、仮設住宅まで  
必要な期間に最適な空間を提供します。

建設現場向けユニットハウスのレンタルについては、受注活動を積極的に推進し、シェア拡大に努めてきましたが、競争激化により、1件当たりの受注単価は大幅に下落しました。その結果、今期のレンタル料収入は4,694百万円(前年同期比1.9%減)と依然として厳しい結果となりました。

今後も、建設現場向けのシェア拡大と新たなレンタル需要の創出を目指し、新規顧客への営業を強化していきます。



### ユニットハウスの販売

オフィス、店舗、教育・保育施設、倉庫など  
全国のさまざまなシーンで  
ユニットハウスが活躍しています。

前期に引き続き、展示場の出店やキャンペーンの実施など売上の拡大を図ってきました。また設備投資の回復に伴い、建設会社や建機リース会社などの建設関連企業への販売に回復の兆しが見えてきました。その結果、販売収入は2,535百万円(前年同期比32.9%増)となりました。

今後も、市場ニーズに合わせた製品の開発に取り組むとともに、展示販売の強化や販路の拡大に努めていきます。



## Topic 1 未利用地、狭小地の利用価値を高める 新しい土地活用ビジネスのご提案

当社では、必要な時に必要なだけ必要な空間を提供するユニットハウスの特長を活かして、利用期間の限られた土地にユニットハウスを建設し、新たな収益を生み出す「新しい土地活用ビジネス」を提案しています。

当社のユニットハウスは、建物の完成後でも、移設・再利用ができる「Mobile Space(動かせる空間)」です。低コスト・短納期でユニットハウスを建設し、使用後も簡易に解体・移設が可能です。そのため、利用期間の限られた土地でも、その利用価値を最大限に高め、短期間で収益を生むことができます。

たとえば、再開発が決まっているために、土地の利用ができないケース、計画の中断により予定の立たないケースは、土地が有効に活用されず、機会損失が発生していました。また、高架下や開発に不向きな狭小地など、オーナーが土地利用を諦めているケースもありました。

ユニットハウスによって、このような未利用地を活用し、新たなビジネスを始めることが可能になります。近年、さまざまな場所で当社のユニットハウスが利用されており、新しい土地活用ビジネスとして今後も注力していきます。

### 資源を有効利用するユニットハウスの買い取り制度

当社には、ユニットハウスの買い取り制度があり、使用後に不要になる場合も安心してお使いいただけます。買い取ったユニットハウスは、センターで整備され、リユースすることで、限りある資源を有効に利用することができます。



### 遊休地・未利用地の活用事例



#### 駐車場の空スペースで

収益向上にも貢献するコインランドリーを設置

#### 駅前的高架下で

地域振興に関わる情報を発信する施設を設置



#### 再開発予定地で

再開発が決まっている都心の遊休地にトランクルームを設置



#### ビルの間隙の狭小地で

駐車場1台分のスペースで運営できる店舗をオープン



## Topic 2 今期、新たに14店舗をオープン

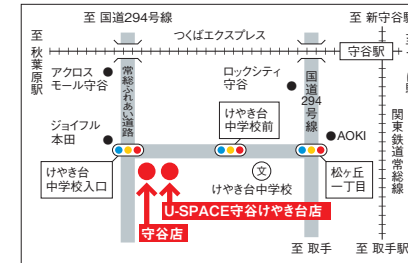
当社は、ユニットハウスを販売する展示場およびトランクルームのレンタルサービスを提供するU-SPACEを全国展開しています。今期は9月までの半年間で、展示場とU-SPACEを併せて14店舗出店しました。その中から展示場とトランクルームの複合店である守谷店・U-SPACE守谷けやき台店を紹介します。

### 守谷店・U-SPACE守谷けやき台店

守谷店は茨城県内4店舗目のユニットハウス展示場として2010年8月にオープンしました。守谷店には、トランクルームU-SPACE守谷けやき台店が併設され、同店では、45 Boxの部屋を貸し出しています。

事務所の建物は、当社のユニットハウスQuoの2階建てモデルを使用しており、モデルルームとしても好評です。

中古ミニハウスや倉庫用ユニットハウスなども展示しており、今後ともお客様の幅広いニーズに応えていきます。



守谷店(展示場): TEL 0297-47-1255  
守谷けやき台店(トランクルーム): TEL 0120-471-383



守谷店(展示場)



守谷けやき台店(トランクルーム)

## Topic 3 ガラス張りのユニットハウスで都心に農園を

2010年7月、当社のユニットハウスを使った都心型農園が東京・六本木に誕生しました。都心部の土地を利用したガラス張りの新しいユニットハウスをご紹介します。

2010年7月に東京・六本木のレストラン「六本木農園」の隣接地に、当社が開発したガラス張りのユニットハウスを使用した農園「六本木農園FARM」が誕生しました。

このユニットハウスは、中の畑が見やすいように鉄骨の枠組みにガラスサッシを組み合わせ、大きなトラックが入りにくい都心の狭小地でも2トン車での運搬・設置ができるように、従来規格よりもひと回り小さいサイズにしました。短期間で設置可能であり、ガラス張りのデザインとにもご好評いただいています。



※「六本木農園FARM」は、「日経アーキテクチュア」10月11日号、9月13日号に紹介されました。

# 財務諸表

## 四半期貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

資産	第42期第2四半期 (平成22年9月30日)	第41期末 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>6,400,487</b>	<b>6,063,052</b>
現金及び預金	1,700,844	1,287,463
受取手形	642,100	635,202
営業未収入金	2,142,567	2,046,978
売掛金	634,552	1,003,569
棚卸資産	836,450	721,819
繰延税金資産	65,499	73,038
その他	430,072	347,500
貸倒引当金	△ 51,600	△ 52,520
<b>固定資産</b>	<b>19,202,157</b>	<b>19,738,364</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>17,979,426</b>	<b>18,552,207</b>
Point 1 レンタル資産	8,376,473	8,921,391
建物	1,017,076	1,049,751
土地	8,188,439	8,188,439
その他	397,436	392,625
<b>無形固定資産</b>	<b>119,752</b>	<b>116,817</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,102,979</b>	<b>1,069,339</b>
繰延税金資産	317,506	280,504
その他	794,172	799,034
貸倒引当金	△ 8,700	△ 10,200
<b>資産合計</b>	<b>25,602,645</b>	<b>25,801,416</b>

### Point 1 レンタル資産

レンタル用ユニットハウスへの新規投資の抑制により、レンタル資産は8,376百万円(前期比6.1%減)となりました。

(単位:千円)

負債	第42期第2四半期 (平成22年9月30日)	第41期末 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>5,544,646</b>	<b>7,732,800</b>
支払手形	134,969	99,936
買掛金	1,181,323	1,292,251
短期借入金	2,308,000	4,448,000
未払費用	1,380,531	1,352,887
未払法人税等	118,500	171,000
賞与引当金	110,700	108,930
その他	310,622	259,795
<b>固定負債</b>	<b>3,553,267</b>	<b>1,512,818</b>
長期借入金	2,916,000	1,020,000
退職給付引当金	332,262	302,914
役員退職慰労引当金	138,570	134,195
その他	166,434	55,707
<b>負債合計</b>	<b>9,097,914</b>	<b>9,245,619</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>16,484,632</b>	<b>16,532,525</b>
資本金	1,545,450	1,545,450
資本剰余金	2,698,150	2,698,150
利益剰余金	12,554,601	12,602,273
自己株式	△ 313,569	△ 313,347
評価・換算差額等	△ 3,561	△ 700
その他有価証券評価差額金	△ 3,561	△ 700
<b>新株予約権</b>	<b>23,660</b>	<b>23,972</b>
<b>純資産合計</b>	<b>16,504,730</b>	<b>16,555,797</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>25,602,645</b>	<b>25,801,416</b>

## 四半期損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	第42期第2四半期 (累計期間) (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	第41期第2四半期 (累計期間) (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
Point 2 売上高	7,578,428	7,255,878
Point 3 売上原価	4,901,725	4,417,210
<b>売上総利益</b>	<b>2,676,703</b>	<b>2,838,667</b>
販売費及び一般管理費	2,464,819	2,607,213
<b>営業利益</b>	<b>211,883</b>	<b>231,454</b>
営業外収益	27,754	34,322
営業外費用	65,496	64,938
<b>経常利益</b>	<b>174,141</b>	<b>200,838</b>
特別利益	2,124	17,501
Point 4 特別損失	60,199	30,546
<b>税引前四半期純利益</b>	<b>116,066</b>	<b>187,792</b>
法人税等	80,953	100,553
<b>四半期純利益</b>	<b>35,112</b>	<b>87,238</b>

### Point 2 売上高

販路拡大の影響や小型ユニットハウス等の販売が好調だったため、売上高は前年同期より322百万円増加し、7,578百万円になりました。

### Point 3 売上原価

レンタル出荷の増加に伴い、材料費等の支出が増加したため、原価率は64.7%(前年同期比3.8%ポイント増)となりました。

### Point 4 特別損失

屋内型トランクルーム、展示販売場等の資産除去債務の適用に伴い46百万円を特別損失として計上したため、特別損失は60百万円(前年同期比97%増)となりました。

## 株主資本等変動計算書

(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本								自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				資本剰余金合計			利益剰余金合計	その他有価証券評価差額金			評価・換算差額等合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金								
平成22年3月31日 残高	1,545,450	2,698,150	2,698,150	177,680	8,569	12,044,000	372,024	12,602,273	△313,347	16,532,525	△700	△700	23,972	16,555,797	
事業年度中の変動額	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
固定資産圧縮積立金の取崩し	-	-	-	-	△1,254	-	1,254	-	-	-	-	-	-	-	
別途積立金の積立て	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
剰余金の配当(中間配当)	-	-	-	-	-	-	△82,783	△82,783	△82,783	△82,783	-	-	-	△82,783	
四半期純利益	-	-	-	-	-	-	35,112	35,112	35,112	35,112	-	-	-	35,112	
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-	△222	△222	-	-	-	△222	
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△2,861	△2,861	△312	△3,173	
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	△1,254	-	△46,417	△47,671	△222	△47,893	△2,861	△2,861	△312	△51,066	
平成22年9月30日 残高	1,545,450	2,698,150	2,698,150	177,680	7,315	12,044,000	325,606	12,554,601	△313,569	16,484,632	△3,561	△3,561	23,660	16,504,730	

## 企業の概要 (平成22年9月30日現在)

商号	三協フロンティア株式会社	
資本金	15億4,545万円	
代表者	代表取締役社長 長妻 貴嗣	
設立	昭和44年12月5日	
事業内容	1. ユニットハウスの製造・販売・レンタル 2. トランクルームの製造・販売・レンタル 3. 立体式駐車装置の製造・販売・レンタル	
役員	取締役会長	長妻 和男
	代表取締役社長	長妻 貴嗣
	常務取締役	端山 秀人
	取締役執行役員	小嶋 俊一
	取締役執行役員	三戸 茂夫
	取締役執行役員	小島 豊
	取締役執行役員	小山 栄英
	常勤監査役	石原 幸夫
	監査役	上田 俊郎
	監査役	重田 龍男
	監査役	山崎 直人

特定建設業許可 国土交通大臣許可(特-20)第18154号  
一級建築士事務所登録 千葉県知事登録1-0704-1483号

## 株式の状況 (平成22年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式の総数	23,356,800株
1単元の株式の数	1,000株
株主数	1,098名 (平成22年3月末比29名増)

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
(有)和幸興産	9,733	41.67
長妻 貴嗣	3,314	14.19
長妻 和男	2,148	9.20
三協フロンティア従業員持株会	431	1.85
個人株主	334	1.43
三菱UFJ信託銀行(株)	200	0.86
(株)千葉銀行	195	0.84
長妻 幸枝	180	0.77
日本生命保険相互会社	162	0.70
住友生命保険相互会社	122	0.52

※当社は自己株式を1,282千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。

## 株主メモ

事業年度  
4月1日～翌年3月31日

定時株主総会  
毎年6月

期末配当金受領株主確定日  
3月31日

中間配当金受領株主確定日  
9月30日

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
電話 0120-232-711(フリーダイヤル)

公告の方法  
電子公告(URL <http://www.sankyofrontier.com/>)  
※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

上場証券取引所  
大阪証券取引所JASDAQ市場

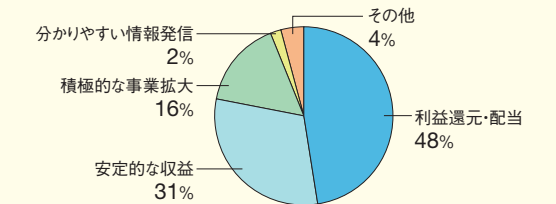
### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- 平成22年4月1日付のジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併により、当社普通株式は大阪証券取引所JASDAQ市場に上場されております。

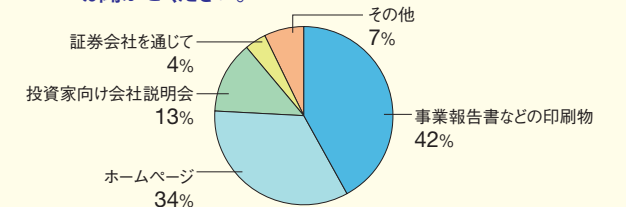
## アンケート結果のご報告

「第41期年次報告書」で実施した株主様アンケートの集計結果をご報告します。140名ほどの株主の皆様からご回答をいただき、厚く御礼申し上げます。当社では株主の皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、今後の経営方針やIR活動に反映させていきたいと考えています。

### Q1 今後、当社に望まれることについてお聞かせください。



### Q2 今後、当社のIR情報提供手段として望まれるものをお聞かせください。



## 当社ホームページのご案内

当社ホームページでは、製品情報や施工事例、IR情報など、幅広い情報を提供しています。是非、ご覧ください。



ホームページ



モバイル版ホームページ

<http://www.sankyofrontier.com/>



久留米事業所は、1996年に現在の福岡県八女郡広川町に物流機能を担う久留米センターとして新設されました。1998年には久留米工場を増設し、九州全体の生産・物流拠点としての役割を果たしています。

生産部門では、新棟ユニットハウスのノックダウン組立て<sup>※1</sup>や、ユニットハウスを構成するパネルやカプセルの生産、中古販売用ユニットハウスのリニューアル生産をしています。新棟・中古ともに生産効率を高めるために、日々、各種検討・改善を重ねています。

物流部門では、在庫回転率の向上を目指して、レイアウト変更や4S活動<sup>※2</sup>に取り組んでいます。

生産・物流部門一丸となって、ユニットハウスの生産・維持管理・再生に取り組み、循環型社会への貢献に努めていきます。

※1 外部で製造した部品をもとに組み立て生産を行うこと

※2 整理、整頓、清潔、清掃を徹底する運動



工場の内部



整備の様子



保管中のユニットハウス